

**令和6年度 第3回沖縄県地域公共交通協議会
議事要旨
<令和7年1月28日>**

**令和7年6月9日
沖縄県**

1 議事次第

第3回沖縄県地域公共交通協議会

日 時：令和7年1月28日(火)

10時00分～12時00分

場 所：沖縄県庁4階 講堂

次 第

1 開 会

2 報告事項：

- (1) 第1回 沖縄県地域公共交通協議会 議事要旨
- (2) 第2回 沖縄県地域公共交通協議会 議事要旨等

3 議 題：目標達成に向けた施策・事業の進捗状況について（令和6年度）

(1) 令和6年度の取組について

①目標1

市町村連携交通会議（分科会）及び交通結節点事業の取組状況

②目標2

琉大キャンパススマート通学大実験

③目標3

観光2次交通結節点機能強化事業（北谷ゲートウェイ）

④目標4

わった～バス利用促進乗車体験事業

⑤質疑応答

(2) R6年度 沖縄県地域公共交通計画 進捗状況の評価（中間）案について

4 閉 会

【配布資料】

資料1 第1回沖縄県地域公共交通協議会 議事録等

資料2 第2回沖縄県地域公共交通協議会 議事録等

資料3 令和6年度の取組

資料4 （案）令和6年度進捗状況評価（中間）

参考資料① 沖縄県地域公共交通計画（概要版）

参考資料② 沖縄県地域公共交通協議会 規約

参考資料③ 77番 時刻表比較資料

2 議事概要

1 報告事項について

(1) 第1回沖縄県地域公共交通協議会 議事要旨 (R6)

資料 No	委員	事務局
資料 1	意見なし	

(2) 第2回沖縄県地域公共交通協議会 議事要旨 (R6)

資料 No	委員	事務局
資料 2	<p>(神谷委員)</p> <p>①第1回協議会でコメントした、運転手や利用者の減少が進む中で、公共交通の利便性・持続性を考慮した目指すサービスレベルについて議論すべきであるという点に関して、どの時点で議論するのか。</p> <p>②77番の件に関して、バス事業者も県などに早めに情報提供していただければ、国の支援を早めに受けることができたため、今後は早めに相談してほしい。</p>	<p>(事務局)</p> <p>①国と県で欠損補助をしている地域間幹線系統確保維持計画は、重要な路線を幹線として維持していくという基本的な考え方となっているため、この計画を踏まえ、どの路線を優先すべきか、優先順位をつけて重要な路線から随時整理していく必要があると考えているところである。県全域でとなると時間を要することから、できるだけ早くから始めていきたい。</p> <p>②早めの情報提供をいただけたら、市町村とも連携しながら、円滑な対策や代替措置を講じやすくなると考えているため、バス事業者様におかれましては、早めの情報提供をお願いしたい。</p>
資料 2	<p><コメント></p> <p>・圏域をまたいだ路線の維持等についても議論していく必要がある。北部・中部・南部での議論だけではなく、より広域的な視点で俯瞰した議論ができる体制づくりをお願いしたい。</p> <p>(當眞委員 (宜野座村))</p>	—
資料 2	<p>(中村会長)</p> <p>・昨日名護東線のバス停を回ってきたが、バス停の時刻表には夜間無料バスの情報が載っていなかった。どうやって高校生や県民に周知しているのか。</p>	<p>(事務局)</p> <p>・教育庁を通じて各学校に周知してもらった他、県のわったーバス党のホームページ等を活用して周知しているところである。</p>

2 議事概要

1 報告事項について

(2) 第2回沖縄県地域公共交通協議会 議事要旨 (R6)

資料 No	委員	事務局
資料 2	<p><コメント> ・今後、77番以外の路線でも問題が起きそうな場合には、早めの対応が必要となる。それらを踏まえて、県で全体を見直しながらか進めていかなければならない。その際、乗降数等の数値がなければ議論も難しくなることから、課題もあるとは思いますがバス事業者様のご協力をお願いしたい。</p> <p>(中村会長)</p>	—

2 目標達成に向けた施策・事業の進捗状況について (令和6年度)

(1) 令和6年度の取組について

資料 No	委員	事務局
資料 3	<p>(小川委員 (琉球バス交通)) ・わったーバス利用促進乗車体験事業について、県からバス事業者に対して前年度の実績に基づいて補助がされているが、国の公共交通確保維持改善事業の補助対象となっていないため、対象としてほしい。</p>	<p>(事務局) ・今回実施した事業の効果や課題等を検証して、今後どのような対応を行うか検討していきたい。円滑に事業展開ができるよう工夫していきたい。</p> <p>(沖縄総合事務局) ・補助については要綱上の要件等も踏まえて行わざるを得ないところもあるが、県とも連携しながら、何かしら対応を考えていきたい。</p>
資料 3	<p><コメント> ・他県で補助を受けている事例があるのであれば、補助を受けられない理由、スキームの違い等を確認し、より良い形で実施できるよう検討が必要である。また、無料実験は、普段バスを利用しない方が利用できるいい機会なので、この流れは育ててほしい。</p> <p>(中村会長)</p>	—

2 議事概要

2 目標達成に向けた施策・事業の進捗状況について（令和6年度）

（1）令和6年度の取組について

資料 No	委員	事務局
資料 3	<p>（神谷委員）</p> <p>①分科会における議論について、高速バスの議論が抜けていると思うが、別に議論する場があるのか。</p> <p>②北谷ゲートウェイについて、地元関係者や関連事業者等とはどのように調整を行っているのか。</p>	<p>（事務局）</p> <p>①那覇・名護間の高速バス等といった広域的な公共交通のあり方については、分科会である圏域の議論とは別に、議論を進めていきたい。</p> <p>② 実証事業導入前に北谷町で地元の事業者の方々と調整した上で、導入している。当然、県の計画にも位置づけており、北谷町のまちづくりの中でもそういう話があったことから、その内容に沿った形で予算化したところである。また、実証中の現在も適宜調整を行っている。</p>
資料 3	<p><コメント></p> <p>・利用者視点においては、交通量の分析を行うよりも、移動に要する時間が短縮されたなどの情報が重要である。効果検証の方法を検討してはどうか。</p> <p>（中村会長）</p>	—
資料 3	<p>（平良委員（本部町））</p> <p>・本部町は、美ら海水族館や、桜祭りなどで多くの観光客で賑わうため、本町にも二次交通の結束点が必要だと感じており、観光部局とも連携し、実証事業を展開できないか要望したい。</p>	—

（2）進捗状況の評価（中間）案について

資料 No	委員	事務局
資料 4	意見なし	